



カンデル神経科学

第2版

健康科学総合教育部門 特任教授
(前理学療法学科 教授)

神成 一哉

KANNARI KAZUYA

おすすめの本を紹介してほしいということで色々考えてみたら、実は昔から一番よく見ているのは地図帳のような気がします。地図を見ながら、今まで行った場所や、まだ行ったことのない場所のことを考えるのは楽しいものです。

しかし地図帳は推薦図書にしづらいので、学術寄りではありますが、カンデル神経科学をおすすめします。ノーベル生理学・医学賞を受賞されたカンデル先生による神経科学の教科書で、英語版の Principles of Neural Science の和訳版です。最新の神経科学に関する知見がわかりやすく記載されています。英語版も平易な英語で書かれているので、そちらにトライするのもお勧めです。実は私にとってはむしろ英語版の方がわかりやすいです。

話は少しそれますが、神経科学とほぼ同義の名称として、世間では脳科学という表現をよく目にします。しかしこの表現には違和感を覚えます。というのは、神経内科医である私にとって、神経系は脳に限らず、脊髄、末梢神経、あるいは自律神経なども全て含めて神経であるという意識が強いのと、英語では neuroscience であって、

brain science とはまず言わない（聞かない）からです。その意味で神経系の学問は神経科学という表記が最もふさわしいと思っています。

神経科学が扱う内容には記憶、運動、視覚など、直接個人に関わる身近なものが多くあることに加え、意識など、いまだに謎が多い分野もあります。教科書だからつまらないだろうという先入観は持たずに、自分が興味を引く分野だけでもいいので、カンデル神経科学を読んでみてください。神経科学の面白さ、奥深さを感じていただけるのではないかと思います。

『カンデル神経科学』

第2版

Eric R. Kandel ほか

宮下保司日本語版監修

岡野栄之ほか監訳

メディカル・サイエンス・

インターナショナル

491.37||Ka51

